

会 議 録

1 会議名

令和元年度第1回上越市地域包括支援センター運営協議会

2 議題（「(3)すこやかに老いるための市民啓発講座 令和2年度すこやかに老いるための市民啓発講座の内容」以降は非公開）

(1)平成30年度地域包括支援センターの業務

(2)令和元年度地域包括支援センターの業務

(3)すこやかに老いるための市民啓発講座

- ・令和元年度すこやかに老いるための市民啓発講座の実施状況
- ・令和2年度すこやかに老いるための市民啓発講座の内容

(4)上越市版地域包括ケアシステムの構築(報告事項)

- ・令和2年度地域包括支援センターの業務内容

3 開催日時

令和元年10月29日(火)午後7時から8時30分まで

4 開催場所

福祉交流プラザ第1会議室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

「(3)すこやかに老いるための市民啓発講座 令和2年度すこやかに老いるための市民啓発講座の内容」以降は、次年度の政策に関わる事項のため、非公開。

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

関係機関等：揚石義夫(会長)、竹内明美(副会長)、竹田陽子、秦里美、植木信宏、
田中美紀、馬場隆信、桑原正史、青山隆一、押山貴光、加藤智範、
河原畑尚美、磯部多津子

関係課等：大山健康福祉部長、高齢者支援課小松係長、廣瀬作業療法士長

事務局（すこやかなくらし包括支援センター）：渡辺所長、南雲次長、柳澤副所長、

高宮上席社会福祉士長、佐藤保健師長、坪井主任、岩井社会福祉士

8 発言の内容（要旨）

開会

あいさつ 大山健康福祉部長

議題

(1)平成30年度地域包括支援センターの業務

(すこやかなくらし包括支援センター坪井主任)

資料1から資料5に基づいて説明

○質疑

桑原委員：資料2の③「時間外対応」について、センター病院地域包括支援センターは夜間対応が多く、地域包括支援センター府中会は休日対応が多い理由は何か。

事務局：資料2の④「権利擁護関係」の内容にあるとおり、センター病院地域包括支援センターは成年後見制度に関する相談が多い。親族等との面談において、相談者の仕事の関係から、夜間対応が多くなっている。地域包括支援センター府中会については、精神疾患を抱える方への対応で週末も対応したため、休日対応が多くなっている。

植木委員：資料2の④「医療」について、みんなでいきる地域包括支援センターの数が多い理由は何か。

事務局：多い理由までは把握していない。

揚石会長：資料4の自己評価票において、「包括的・継続的ケアマネジメント支援」の自己評価が低かった地域包括支援センターが、改善に向けた取組を進めているという説明が事務局からあった。上越地域居宅介護支援事業推進協議会の中ではどのように受け止めているか。

竹田委員：特に話は出ていない。

揚石会長：介護支援専門員として、地域包括支援センターに対する要望はあるか。

秦委員：困った時は、担当の地域包括支援センターからアドバイスをもらえたり、同行訪問をしてもらえたりしているので、要望はない。

加藤委員：個別地域ケア会議に参加しているが、その後の支援がどう展開されたのかが気になっている。事例集は毎年出されているが、その後の支援も分かると良いのではないか。

事務局：次回に出す事例集には、その後の支援経過を掲載する予定である。

馬場委員：民生委員児童委員の定例会には、是非、地域包括支援センターからも参加して

ほしいと思っている。資料2の⑦「民生委員会議・研修会」を見ると数にばらつきがあるが、どのように捉えているか。

事務局：昨年度新しく参入した地域包括支援センターには、積極的に地域に出向いて、民生委員などとの顔の見える関係を築くよう指導してきた。今後も、全ての地域包括支援センターに対して、民生委員児童委員を始めとした地域の支援者との連携を深めるよう、指導を行いたい。

竹内副会長：地域では、困り事があっても、相談することを恥ずかしいことと捉えて地域包括支援センターに相談に行けなかったり、家族全体で抱え込んでしまったりする人達がいる。地域包括支援センターには、積極的に地域に出向いてもらって、支援をしてほしい。また資料1の業務実績「③地域包括ケアシステム構築のための業務」において、ひとり暮らし高齢者世帯や、高齢者のみ世帯を見守る時のポイントを共有したとあるが、その内容を教えてほしい。

事務局：ゴミ出しの日にちや分別を間違っていないか、身なりの清潔が保たれているか、新聞受けに郵送物が溜まっていないかといった外観から分かるものの他、同じことを繰り返し話す、といったような、日頃からつながりがあるからこそ気付けるポイントも共有された。

磯部委員：資料3について、警察からの虐待通告が増えているが、その状況を教えてほしい。

事務局：警察からは、警察に寄せられる高齢者虐待の相談が増えていると聞いている。また、市への通告については、高齢者虐待防止法に基づいて発信していると説明を受けている。

磯部委員：資料2では虐待対応が多いことが読み取れる一方で、地域包括支援センターから市への通告が少ない理由は何か。

事務局：資料2に示してあるのは第1発見者が市に通報を入れた件数であるため、地域包括支援センターからの通報は少なくなっている。なお、虐待受理後は介護支援専門員への支援などで関わるが多いため、虐待対応の件数が伸びている。

押山委員：資料2の④「医療」に関する相談件数が6,592件あるが、薬に関する相談はどれくらいあるのか。

事務局：細かな内訳までは把握していない。

(2) 令和元年度地域包括支援センターの業務

(すこやかなくらし包括支援センター坪井主任)

資料6に基づいて説明

○質疑

竹田委員：個別地域ケア会議で地域課題の抽出をしても、その先の取組が見えてこない。

課題解決に向けた取組がなされると、地域の活性化にもつながると思う。

揚石会長：資料6の④に書かれている「主任介護支援専門員情報交換会」について詳しく説明いただきたい。

事務局：高田地域の4つの地域包括支援センターが合同で企画をしたものである。地域課題を解決するために、介護支援専門員としてできることを考え、展開していただきたいという思いがあり、顔の見える関係作りをするための第一歩として開催した。

揚石会長：個別地域ケア会議や主任ケアマネの会など、重層的な観点で地域課題を考えられると良いだろう。

(3)すこやかに老いるための市民啓発講座

- ・令和元年度すこやかに老いるための市民啓発講座の実施状況
- ・令和2年度すこやかに老いるための市民啓発講座の内容

(すこやかなくらし包括支援センター佐藤保健師長)

資料7に基づいて説明

○質疑

青山委員：資料7にある目的の中に高齢者の自殺が多いと書かれているが、その原因は把握しているのか。

事務局：同居世帯に自殺者が多いことや、自殺の原因に健康問題が関わっていることを把握している。

青山委員：3回目の講座の内容にこころの健康を掲げているが、自殺の原因をはっきりさせて、具体的に踏み込んだ内容にしたらどうか。

事務局：自殺者一人ひとりの状況が異なることから、地域でのつながりを大切にして、見守りを行う中での自殺予防という内容で考えたい。

青山委員：参加者の年代に20代、30代の方が参加しているが、どのような方がおられるのか。

事務局：家族の介護をされている方、介護支援専門員、介護保険サービス事業所の方等

に参加いただいた。

竹内副会長：参加者へのアンケート調査を行うのであれば、職業を書いてもらうのも良いのではないか。

事務局：参考にさせていただく。

揚石会長：平均8人から10人という参加者を対象として、112回の講座をするということは、意味があることだと思う。介護予防については地域包括支援センターも取り組んでいるものなので、市との役割分担を整理すると良いのではないか。

事務局：地域包括支援センターと情報共有を重ね、次年度の計画を考えたい。

以下非公開

終了

9 問い合わせ先

健康福祉部 すこやかなくらし包括支援センター（福祉交流プラザ 2階）

TEL：025-526-5623

E-mail：sukoyaka@city.joetsu.lg.jp